

# 2011年3月11日地震の観測記録を用いた 女川2号機原子炉建屋の地震応答解析結果について

(第160回 女川原子力発電所環境保全監視協議会委員のコメント回答)

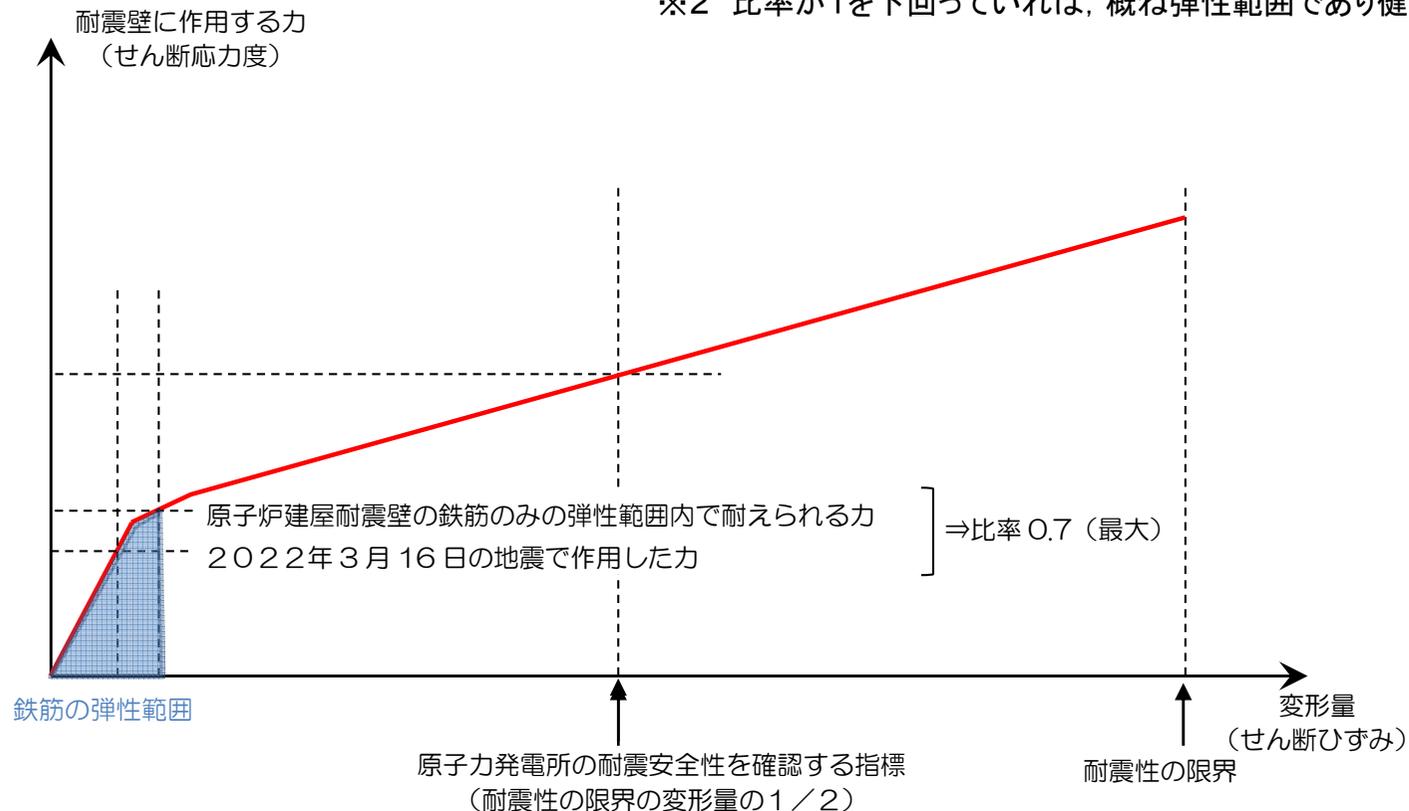
令和4年8月30日

東北電力株式会社

# 説明概要

- 第160回女川原子力発電所環境保全監視協議会(2022年6月7日開催)にて、2022年3月16日の地震観測記録を用いた2号機原子炉建屋の地震応答解析結果をご報告した。
- その結果の一つとして、地震で作用した力と2号機原子炉建屋耐震壁の鉄筋のみの弾性範囲※1内で耐えられる力の比率※2が最大0.7であり、健全性が確保されていることをご報告している。
- その際にいただいた「2011年3月11日の地震で作用した力との比率はどうであったか」というご質問に対して回答するもの。

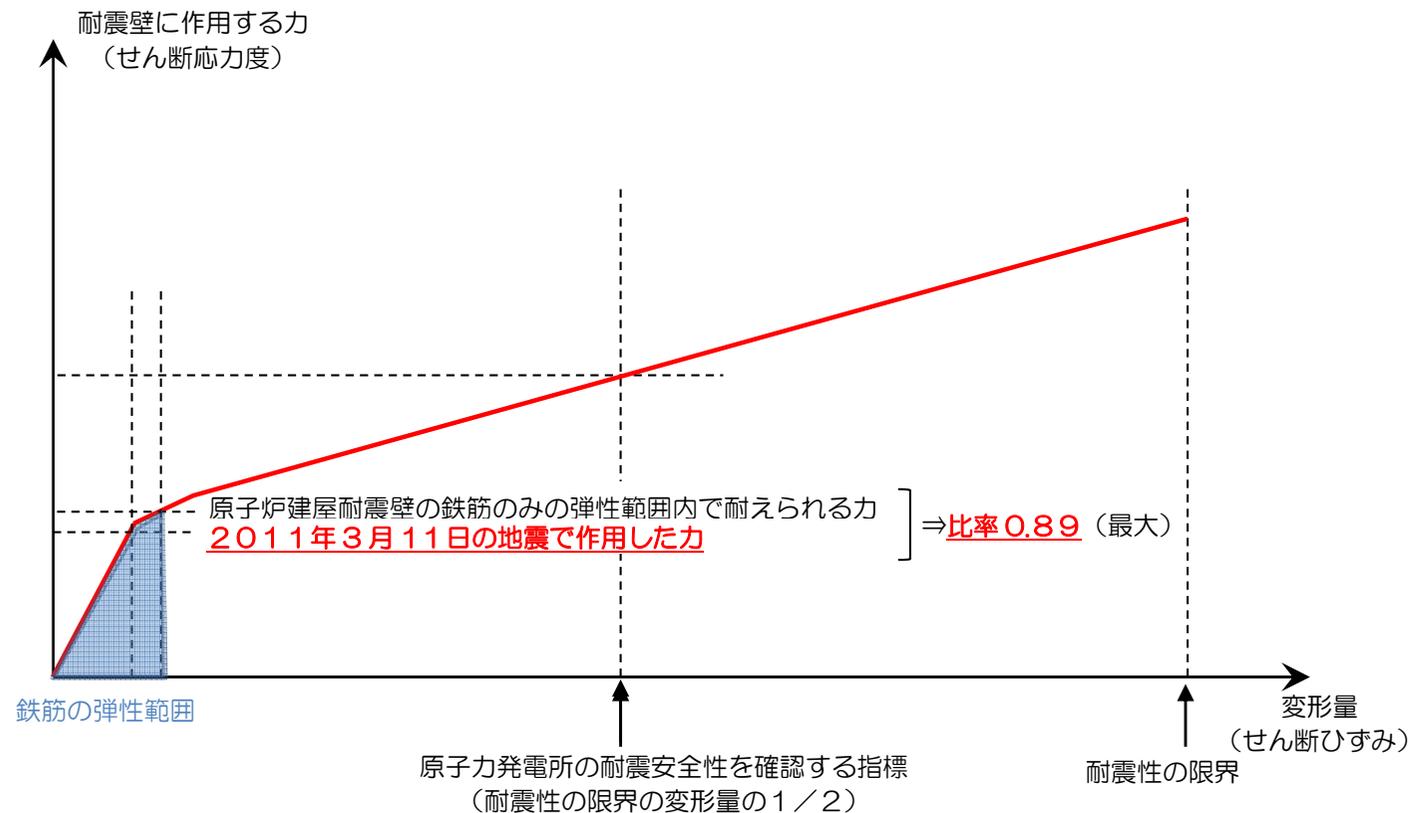
※1 地震による揺れの力を受けても、その力がなくなれば元に戻る状態  
 ※2 比率が1を下回っていれば、概ね弾性範囲であり健全性は確保される



2022年3月16日の地震で原子炉建屋耐震壁に作用した力と変形量の概念図

# 2011年3月11日の地震で作用した力との比率について

- 2011年3月11日の地震後も、同様の手法により地震応答解析を実施している。
- その結果、地震で作用した力と2号機原子炉建屋耐震壁の鉄筋のみの弾性範囲内で耐えられる力の比率は最大0.89であり、比率が1を下回っており、健全性が確保されていることを確認している。



2011年3月11日の地震で原子炉建屋耐震壁に作用した力と変形量の概念図